

令和4年度 目標と結果 広島市文化財団ベンチマークス(こども文化科学館)結果

使命 (ミッションステートメント)		存在意義	こどもの文化及び科学に関する興味と関心を高めて創造性を喚起するとともに向上心をかん養し、もって社会教育の発展に寄与する。		
		基本方針	・「驚き・感動・新発見」をスローガンとして掲げ、こどもの科学する心の育成に取り組む。 ・調査研究活動を基幹的機能として位置づけ、事業の企画立案から実施、館運営全般に至るまで「みる・ふれる・ためす・つくる・たしかめる」を取組の柱として事業を展開する。		
		事業の実施方針	・知的サービス施設としての博物館 ・本物の体験と豊かな感動を提供する博物館 ・こどもたちの集まる博物館 ・専門性とネットワークを活かした博物館 ・参加と連携による開かれた博物館		
事業領域	領域目標	事業	事業目標	目指す成果(業績指標)	目標値 → 結果
常設展及び企画展	市民に科学に関する体験の場を提供し市民の科学的リテラシーの向上を図る。	常設展	ハンズオンの展示に触れることを通してこどもの科学する心を育成する。	館内展示について楽しいと感じた入館者の割合	70%→89%
		企画展	話題性の高い企画展を開催し市民の科学に関する興味関心を高める。		
		プラネタリウム	プラネタリウムの投影を実施し市民の天文に関する興味関心を高める。	土日祝日、学校休業日のプラネタリウムの観覧者席稼働率	25%→34%
教育普及事業	学校や社会教育施設等と連携し地域における科学や文化の振興に寄与する。	教室事業	教室事業を実施しこどもの科学やものづくりに関する興味関心を高める。	教室事業に参加して内容に満足した参加者の割合	80%→94%
		クラブ活動	クラブ活動を実施しこどもの科学・文化に関する知識・技能の向上を図る。	知識や技能が身についたり伸ばすことができたクラブ員の割合	70%→97%
		ホール事業	音楽や演劇などの鑑賞会を実施し、こどもの情操を養い文化を創造する心を育成する。	ホール事業に参加して内容に満足した参加者の割合	80%→95%
利用者等への学習活動支援	市民の科学に関する学習を支援する。	科学相談の実施	科学研究相談室を実施しこどもの科学研究をサポートする。	科学研究相談を利用して満足したこどもの割合	80%→100%
学校、地域等との連携	学校や地域団体等と連携し、地域社会における科学教育の振興を図る。	学習投影の実施	プラネタリウムにおいて学習投影を実施し学校の天文学習をサポートする。	学習投影を利用した学校数	100校→70校
		地域等との連携	学校、大学、企業等と連携し地域における科学教育の振興を図る。	科学に関するイベントに参加して満足した市民の割合	70%→100%
		ボランティアの育成	市民にボランティア活動の場を提供しボランティアの育成を図る。	ボランティア活動に参加し良かったと答えたボランティアの割合	70%→50%
施設管理	心のこもった質の高いサービスを提供する。	接遇	もう一度来たいと思ってもらえる心のこもった対応を行う	館内を心地よく利用できたと答えた人の割合	70%→75%